

農林業の未来を担う

静岡県立 農林環境専門職大学



3月に完成予定の新校舎（イメージ）

学生食堂や図書館は一般にも開放される予定
食堂では学内農園で採れた食材を使ったメニューも味わえる

令和2年4月、市内に2つの大学が新たに開学しました。静岡県立農林環境専門職大学と短期大学部です。同校の前身は「農林大」の愛称で長く親しまれた県立農林大学校です。

新たな一歩を踏み出した農林環境専門職大学とはどのような大学なのでしょうか。

「専門職大学」って？

専門職大学とは、令和元年度に創設された、特定の職業のプロを養成する新しいタイプの大学です。大学と専門学校それぞれの長所を取り入れ、理論と実践をバランスよく学べるのが特徴です。

卒業時には「学士（専門職）」短期大学士（専門職）」の学位を取得でき、即戦力の専門職として、そして現場の最前線に立つリーダーとして活躍が期待されます。

現在、農林環境専門職大学・同短期大学部を含め全国に9校の専門職大学、2校の専門職短期大学部が開設されています。

農林業分野では日本で唯一

農林環境専門職大学は、日本初そして唯一となる農林業分野の専門職大学です。全国にはその他にも、医療・福祉・保健・栄養・調理・ICT・観光・ファッション・美容など、さまざまな分野の専門職大学が開学（または開学を予定）しています。

120年続く育成の歴史

前身の農林大学校の歴史は古く、明治33年に現在の静岡市にあった県農事試験場の見習生制度による人材育成から始まりました。

その後、昭和49年には県立農業短期大学校と農林短期大学校となり、昭和55年に両校を統合し、農林短期大学校として磐田市（旧豊田町）に新築移転し、昨年で120年を迎えました。

そして令和2年4月、先輩たちの背中を追って、農林環境専門職大学に27人、短期大学部に77人が入学しました。学生たちは、この磐田の地で農林業のリーダーを目指して日々勉強に励んでいます。



静岡県立農林環境専門職大学
鈴木 滋彦 学長

地域社会のリーダーを養成し
地域の皆さんに愛される存在でありたい

——農林環境専門職大学とはどのような大学ですか

専門職大学のキーワードは「高度な実践力」と「豊かな想像力」です。大学生としての教育をしっかりした上で、社会に出て活躍するために必要な技術を持ち、マネジメントまでできる人材を育てようと制度化されたものが専門職大学です。

本学では、栽培技術に加えて加工、流通、販売、経営についても学ぶカリキュラムが特徴です。また、地域の環境・伝統・文化を学び、将来の地域社会のリーダーとなれる人材の養成を目指しています。

——磐田市との関わりは

磐田市には本学の他に農業高校があり、県の農林技術研究所もあります。さらにかつて静岡大学の農学部がありました。あまり知られていないのが残念ですが、実は磐田市と農業教育との関わりはとても深いんですよ。

——地域や企業・団体などとの連携について

専門職大学の特徴は、授業の3分の1以上が実習・実技であることです。本学では「臨地実務研修」と呼んでいる長期のインターンシップがあります。専門職大学の人材育成は学校だけでできるものではなく、関係する企業・団体、そして地域の教育力と連携することで成り立っています。こうしたことから、磐田市が発足させた「未来の農業 連携懇話会」での取り組みに期待しています。

——市民やこれから進路を決める若者にメッセージを

多くの産業は、一般的に資源やエネルギーを消費します。これに対して農林業は、食料や資源、エネルギーを生み出す「衣・食・住」を支える必須の産業です。若者の皆さんが将来どのような産業に身を置きたいかを考えるときにお伝えしたいのは、農林業は課題もあるが魅力のある分野だということ。そして、仕事の仕方や生活の様式など価値観が変わってきている今こそ、農林業にチャレンジしてほしいということですね。

大学は地域の皆さんに愛されなければ成り立ちません。市民の皆さんにこの大学が地元にあることをうれしいと思っていただけるような存在にしていきたいと思います。

産・学・官がスクラム！「未来の農業 連携懇話会」

市では、農林環境専門職大学や市内の農業・商工団体、企業などと連携し、農業の課題解決策を話し合う「未来の農業 連携懇話会」を発足させました。

懇話会では、参加団体の現場責任者が意見交換を行い、それぞれの垣根を越えて専門的な知見を生かしつつ、課題解決に向けて連携していきます。

例えば、専門職大学と農業法人による病害虫駆除の研究や、専門職大学と市内企業によるドローンを活用したスマート農業などをテーマに連携を模索していきます。



▲第1回未来の農業 連携懇話会の様子



▲ドローンによる薬剤空中散布実証試験の説明を受ける関係者